



始まりは3人の医師 2004年秋、金塚 東・篠宮正樹・栗林伸一の3人の内科医が集まり、増加する生活習慣病を根本的に防止するために活動しよう、と話し合いました。

- 1 生活習慣病の芽が子ども達にまでまん延
- 2 染みついた生活習慣をその個人で変えるのは難しい
- 3 医療者と市民の間で、知識や考え方にギャップがある
- 4 誤った健康情報や民間療法が巷にあふれている

このためには、市民と医療者がともに協力し合い、幅広い効果的な活動を進めていく必要があります。この趣旨に賛同する多くの市民と医療者により、2005年NPO法人「生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会（愛称：小象の会）」が設立されました（右上 千葉日報の報道）。

医師・看護師・保健師・検査技師・薬剤師・栄養士・教員などの専門知識を持つ人達とともに、企業・民間団体や行政などで、法律や文化芸術なども含めて多くの経験を持つ人達が大きな力を発揮しました。



フォーラムの開催 市民が知りたいテーマを選び、会の趣旨に賛同する医療者を講師に迎えて年2回の小象フォーラムを、計27回主催。毎回多くの参加者から高い評価を得てきました。



ロッテ球場での啓発活動

多くの観客が集まるロッテ球場で、直接市民とかわかれる活動をしました。資料配布や簡単な体力測定、医師による健康相談、メインスクリーンでの広報などの活動をしました。



会報・書籍・ホームページなど 会報を年2回第31号まで発行、糖尿病の知識を普及する「小象の糖尿病通信」を8号まで発行し毎年の「市民のための糖尿病教室」で配布。ホームページとブログも開設、小象の会の様々な情報を発信中です。「小象の会」でご検索ください。子ども達に親しめる形で、人間の身体の素晴らしさや、健康情報を届けるため、篠宮理事長と小倉理事（童話作家）との共著により、2冊の童話を刊行。新聞にもとりあげられ、2冊とも千葉県課題図書に指定され、全国に普及しました。



出前講座・講話 役員・会員が直接、小中学校・会社・事業所に出向き、「人間の身体の素晴らしさを知り、自尊感情を高めること」の必要性や、糖尿病の知識などをテーマに講演をしました。



千葉日報紙上での連載

2018年10月から、生活習慣病の知識と医療について直接読者に語りかける「小象の 元気！で行こう」を連載、2年間 70回で完結。この内容を広く届けるため、2021年3月に書籍として3千冊刊行し寄贈。

コロナ禍の羅針盤

医療現場からの情報提供とアドバイス



2021年10～11月専門医の執筆による「コロナ禍の羅針盤—医療現場からの情報提供とアドバイス」を千葉日報に連載、12月にブックレットとして7千冊を作成して寄贈。

ともに千葉県医師会などの県内諸医療団体役員・医療系大学生、全ての千葉県立高等学校・特別支援学校、全ての千葉市立小中学校・特別支援学校・公民館などに寄贈。

企画・編集 千葉県立保健医療大学長 龍野一郎
NPO法人小象の会理事長 篠宮正樹

協力 千葉日报社

推薦 千葉大学医学部附属病院 病院長 横手幸太郎

事務局

役員(50音順)

e-mail naika@2427.jp

電話 043-263-1118

FAX 043-265-8148

一緒に活動しましょう！

- | | | | |
|------|------|------|-------|
| 理事長 | 篠宮正樹 | 栗林伸一 | 中野英昭 |
| 副理事長 | 櫛方絢子 | 梅宮敏文 | 小倉明 |
| 理事 | 内田大学 | 高橋信一 | 高柳佐土美 |
| | 高橋信一 | 古市雅雄 | 柳澤葉子 |
| 監事 | 櫻井義人 | 蛭田隆 | |
| 顧問 | 金塚 東 | 齋藤 康 | 高橋金雄 |
| | | | 萩原 博 |

裏面ご覧
ください

生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会（愛称 小象の会）